

## 1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《勘平と、その弟銀平は、父徳治が座長をつとめる旅まわりの芝居一座に出演しています。》

勘平の① ひそかな訓練は、あっさりバレた。

ことの起こりは捨て犬である。銀平が一太と学校の帰り道、小犬を見つけた。食堂を② 営む一太の家では飼うのを禁じられ、銀平のところではなおさらである。

あきらめきれない銀平は、劇場のうら手にある③ 防空壕のあとに小犬をつなぎ、ひそかにえさを④ ハコぶことに決めた。

ところで、勘平のけいこ場もここだったのである。

落ちる⑤ 扇を拾っては、くるくるさせている兄のすがたに、銀平は⑥ 目を見張った。

「にいちゃん、\* 何ばしよっと?」

一番知られたくない相手に、勘平は見つかったのである。とっさには声も出ぬ勘平の扇を銀平はうばうように取った。新しい遊びを見つけたのである。

銀平は、たちまち熱中した。が、ひとしきり動かしてみると、あきた。

小犬にかまっている弟を見ている勘平のむねには、むらむらと⑦ \* がわいてくる。自分が賭けていたもの

15

10

5

を横あいからひよいとうばい、あきると無造作に打ち捨て見向きもしない。勘平は、自分の熱中を小バカにされた思いである。

「ないしょにしといて\* くるるじゃろ」

と小犬の頭をなでていた銀平がふり向いて、そういったとき、勘平はいった。

③ 親にかくしごとは、いけん」

背を向けて防空壕を出る兄に、銀平は、「たのおげん、一生のお願いじゃけん!」

だが勘平はふり返らなかつた。

旅まわりに生き物は④ 法度だった。のみならず徳治たちには、人間一人さえ食うにこと欠いた記憶が生々しくある。明日、どうなるかわからないのだ。徳治は理をわけて銀平に言いふくめ、捨ててくるようにいった。

口をへの字に⑤ ムスんで銀平が小犬をだき上げようとすると、その手にじゃれかかり、犬はグミの実ほどのぬれた鼻先をおしつけてきた。

河原に小犬を置くと、小犬は銀平を見上げた。

その⑥ \* 無垢の目を見たたん、銀平の胸を感情がさしつらぬいた。自分でも思いがけないなみだがこみあげた。

〔井沢満「いちばん太鼓」より〕

(注) 防空壕Ⅱ戦争中、空襲からのがれるために、地

35

30

25

20

面をほって作つたあなぐら。

扇あふせんす。あおいで風を出す道具。おどりを

舞まう時などにも手に持つ。

何なにばしよつと何なにをしてるの。

くるるじやろろくれるよね。

無垢むこけがれがないこと。純粋じゆんすいなこと。

(1) 線①、線②、線③の、漢字は読み方をひらがなで、カタ

カナは漢字で書いて答えなさい。

3点×3

①	②	③
ぶ	ぶ	んで

(2) 線①「ひそかな訓練」とありますが、この「訓

練」の様子が具体的に書かれている部分を、本文中から十九字（読点も字数に数えます）で書きぬいて答えなさい。

5点

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(3) 線②「目を見張った」は、この場合、銀平のど

のような気持ちを表していますか。次から最もふさわ

しいものを選び、記号で答えなさい。

ア 弟の自分にかくれてけいこをしている兄に対して

腹はらを立てる気持ち。

イ 芸げいにかける兄のひたむきさに対してあこがれと尊そん

敬けいをいづく気持ち。

ウ 兄がしていた思いがけないことに対しておどろ

き、興味をいづく気持ち。

エ 芸がなかなか上達しない兄に対して失望し、かわ

いそうに思う気持ち。

(4) ※に入る最もふさわしいことばを次から選び、

記号で答えなさい。

ア 親しみ イ いかり

ウ 希望 エ 疑問ぎもん

5点

5点

(5) 線③「親にかくしごとは、いけん」とありますが、

銀平の「かくしごと」とは、具体的にはどのようなことですか。「しごと」という形で、十五字以内（句読点も字数に数えます）で、書いて答えなさい。

6点

		こ	と						

(6) —線④「ご法度」の意味として最もふさわしいも

のを次から選び、記号で答えなさい。

ア 禁じられていること。

イ 満たしていること。

ウ 定められていること。

エ 欠けていること。

5点

(7) 本文中ではどのようなことが中心にえがかれていま  
すか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答え  
なさい。

ア 小犬を守り通そうとする兄弟のすがたと、子ども  
たちのあまえを許さない、きびしい父親のすがた。

イ 芸を教えこむ父のきびしいすがたと、それに決し  
てへこたれず、訓練に熱中する兄弟のすがた。

ウ 芸をみがこうと努力している兄のすがたと、まだ  
おさなく、小犬との別れをつらく感じている弟のす  
がた。

エ 弟の小犬への愛情を理解し、助けようとしている  
兄のすがたと、子どもに一方的に命令する父親のす  
がた。

6点

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① ことばは、どうしてできたのでしょうか。こんな話  
があります——むかし、むかし、この世に<sup>Ⓐ</sup>スむ人間と  
いえば、まだ神様に<sup>Ⓑ</sup>造られたばかりのアダムひとり、  
というところのことです。ある日、神様はアダムをお呼<sup>よ</sup>び  
になりました。そして、アダムにいろいろな動物、いろ  
いろな植物などをつぎつぎにお見せになり、それぞれの  
もののナマエをお教えになりました。こうして、ことば  
が始まったというのです。

② このお話を、みなさんはどのように考えますか。

①、<sup>Ⓐ</sup>「でも、神様はどこでそのことばを習ったのか」  
とか、「だいたい神様なんて持ち出してくるなんて、ず  
るいや。そんなことするなら、何だって説明できるよ」  
などと、きびしい質問や意見が出されるでしょう。ほん  
とうにそのとおり、このような疑問はまったく正しいも  
のです。

③ しかし、ひとつ考えておかなくてはならないことが  
あります。みなさんは昔話を聞いたことがあるでしょ  
う。そのようなとき、みなさんは、そこで語られている  
ことがすべて事実だと思って聞いていますか。もちろん、  
① そんなことはないでしょう。たとえば、動物たちが人

間と同じことばを話さないことくらいは、だれだって知っています。だから、大切なことは、<sup>②</sup> そのような語り方をすることによって、昔の人たちは何を言いたかったのかを考える、ということではないでしょうか。

④ 「神様」を持ち出すことによって、昔の人たちはことばについて何を言いたかったのでしょうか。

⑤ 私たちは神様ではありません。しかし、よく考えてみますと、私たちも、先の話の神様と同じように、<sup>③</sup> ものにナマエをあたえるということをしているのに気づくはずです。

⑥ たとえば、かわいい子ねこをもらって、家で飼うことにしたとしましょう。みなさんは、きっとその子ねこにナマエをつけてやり、友だちが遊びにきたときなど、「この子ねこのナマエはコロチャン」などと言って教えてあげるでしょう。<sup>④</sup> さっきの話で、神様がなさったというのと同じことをあなた方がしているわけです。

⑦ だれでも、自分でかわいい子ねこを飼うとしたら、それにナマエをつけたくくなります。なぜでしょうか。

②、その子ねこが自分にとって「大切な」ものだからです。その子ねこだけのナマエをつけることによって、その子ねこはそのあたりをうろつきまわっている名もないのらねことは区別された、あなたにとって大切な

40

35

30

25

ものとなるのです。

⑧ あきこちゃんには、<sup>③</sup> ことばも十分に話せない赤ちゃんだったころ、自分がいつも <sup>⑤</sup> ツカっていた小さな毛布に「クイクイ」というナマエをつけていました。お昼寝のときも、夜寝るときも、ねむくなってくる「クイクイ、クイクイ」と言って、その毛布を持ってきてもらうのです。どの毛布でもよいというわけではありません。自分にとって、大切な大切な毛布はそれ一つだけで、それに「クイクイ」というナマエをつけていたのです。

⑨、<sup>④</sup> ナマエをつけるということの意味がそのようなことだとしたら、人間はきつと自分のまわりのいろいろなものにナマエをつけずにはいられないはずです。ナマエをつけることによって、人間は自分にとって大切なものをそうでないものと区別していきます。そのような区別をするということは、人間が生きていくということのためにも必要です。そのようにしなくてはいられない人間の性質——そのようなことを昔の人は、「神様が教えた」ということでは言いたかったのではないのでしょうか。

〈池上嘉彦「ふしぎなことば」ことばのふしぎ」より〉

60

55

50

45

(1) — 線①〜③の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

3点×3	①	②	③
A	ウ	B	C
	む	られた	って

(2) ① ④ に入る最もふさわしいことばを、

それぞれ次から選び、記号で答えなさい。(同じことばは二度選べません)

ア まだ      イ もし

ウ たぶん    エ もちろん

3点×4	①	②	③	④
------	---	---	---	---

(3) — 線①「そんなこと」が指している内容を、「こと。」という形で、二十五字以内(句読点も字数に数えます)で、書いて答えなさい。

6点					

(4) — 線②「そのような語り方をする」とは、昔話のどのような点を指していますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

6点					

② 人が「ものにナマエをあたえる」のは、何をするためだと筆者は述べていますか。「大切なもの」ということばを必ず用いて、「ため。」という形で、二十五字以内(句読点も字数に数えます)で、書いて答えなさい。

5点×2					
------	--	--	--	--	--

ア 事実がありのままに書かれている点。  
 イ 動物を主人公にして書かれている点。  
 ウ 現実ばなれたことが書かれている点。  
 エ わかりやすいことばで書かれている点。

5点	
----	--

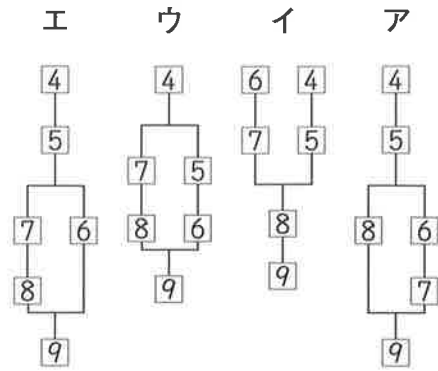
(5) — 線③「ものにナマエをあたえるということ」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

① ここで述べられている「もの」の具体例として挙げられているものを二つ、それぞれ、ここより後の本文中から三字以内で書きぬいて答えなさい。

(6) —線④「さっきの話で、神様がなされたというのと同じことをあなた方がしているわけです」とありますが、「さっきの話(段落①)」の「神様」にとっての「アダム」は、「あなた方」にとっての何にあたりますか。本文中の段落⑥から書きぬいて答えなさい。

5点

(7) 本文中の段落④～⑨の、段落どうしのつながり方を図で表した場合に最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。



6点

(これで問題は終わりです)